

密林

森野 水琴

彼が森を散歩していると、立入禁止になっている密林に出くわした。手つかずの原生林のようで、道も無く、もとより立ち入ることは困難なようである。

密林を取り巻くようにして道があるのだが、かなり距離がありそうで、とても歩けたものではない。

すぐに来た道を引き返すのも惜しい気がして、取り巻く道を時計回りに歩きながら、彼は密林を眺めている。

素朴な感じが気に入ったようである。

人が開発するのを避けるようにして、自然と共存している密林。

ゆっくり逆回りして、元の位置から、時を忘れて彼は密林を眺めている。存分に眺めた後、彼は密林に別れを告げて散歩道を帰る。

また逢いたいと振り返ると 密林が微笑んでいる